

家庭学習のてびき

～主体的に学び、確かな学力を身につけるために～



学習4つの約束

授業開始2分前着席

「はい」としっかり返事をする

集中して話を聞く

最後まではっきり話す

いわき市立磐崎中学校

小学生から中学生へ

1 小学校と中学校の違い

中学校では・・・

1時間の授業が50分になります。
教科によって担当の先生が替わります。
本格的に英語の授業が始まります。
中間テストや期末テストなどの定期テストがあります。
成績が5段階で評価されるようになります。
部活動が始まります。学習との両立が大切になります。
高校入試を意識した学習が必要になります。



家庭では・・・

子どもは不安や悩みを抱えやすくなります。
親子で「約束を作る、守る、守らせる」ようにしましょう。
自信を持たせられるように良いところを褒めてあげましょう。
子どもの変化、活躍に敏感になりましょう。
成長を支える食習慣を作りましょう。(朝食は必ず食べる習慣をつけましょう。)
具体的な進路目標を決めるために家族で話し合しましょう。

2 家庭学習のポイント

出された宿題は、次の日にその教科の授業がなくても、出された日に終わらせるようにしよう。
一日1教科ではなく、2～3教科の学習を心がけよう。
苦手教科は後回しにせず、最初に取り組むようにしよう。
テストやワークシートでできなかった問題は、必ず見直す習慣をつけよう。
進路目標(行きたい高校、なりたい職業)を具体的に決めて、計画的に学習しよう。
毎日、一定時間、決まった場所で家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣を身につけよう。

家庭学習の敵はテレビやゲーム、携帯電話などでのメールのやりとりです。この誘惑に打ち勝つことにより、我慢強さや根気強さ・集中力を養うことができます。家庭学習の時間を確保した残りの時間でくつろぐ習慣をつけるようにしよう。

3 脳を活性化させるために

- (1) 読み・書き・計算を毎日くり返すことは脳の活性化につながります。脳も、手足の筋肉と同じように、毎日繰り返し使うことによって活発に働くようになるのです。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。
- (2) 普段から、背筋を伸ばし、足を組まずに、姿勢の良い生活を心がけてください。姿勢の悪い子は得てして成績も悪いものです。それは頭が悪いからではなく、集中力が続かないからです。良い姿勢は脳を活性化させ、集中力を高めることができます。



4 ご家庭へのお願い

家庭学習の習慣が身についたら、次の段階として、結果の出る学習が大切になってきます。つまり、「1時間勉強した」、「2時間勉強した」というのではなく、「何々ができるようになった」というように、結果として表れる学習をさせていくことが大切です。中学校での過ごし方を規律正しいものとし、今後の学校生活を楽しいものにするためにもご家庭のご協力をお願い致します。

国語の学習

1 目標

- (1) 教科書に載っている漢字の読み書きができる。
- (2) 教科書をすらすら音読することができる。
- (3) 新しい語句を辞書で調べ、文中で正しく使うことができる。
- (4) 自分の考えを文章で書くことができる。
- (5) 自分の考えを人前で話すことができる。
- (6) 文章や人の話の内容を理解し、説明することができる。



2 国語の家庭学習



(1) 教科書を大きな声で音読しよう。

声を出して読むことは、いろいろな器官を使い脳を活性化させることにつながります。聞く人の立場になり、ゆっくり大きな声で読もう。(1分間に300字程度)
韻文(詩、短歌、俳句)や古典は、何度も繰り返し読み、暗唱できるようにしよう。

(2) 漢字を書いて覚えよう。

毎時間、漢字テストがあります。漢字テストは、勉強してから受ける習慣をつけよう。読めない漢字は辞書で調べて、読めるように書けるようにしておこう。
漢字練習帳や自主学習ノートなどを活用し、漢字の読み書きを練習しよう。

(3) その日のノートやワークシートは、その日のうちに見直そう。

文章の読み方や学んだ内容を身につけよう。
見直してわからなかった箇所は、次の日に質問できるようにしておこう。

(4) ワークやプリント類を自分で解いてみよう。

学習した範囲のワークの問題を宿題になる前に解いておこう。
ワークやプリントは全て仕上げて提出できるようにしよう。



(5) 自分なりの授業ノート作りをしよう。

板書事項だけでなく、先生の言ったことをメモする習慣をつけよう。
語句の意味、対義語・類義語、短文作りは、予習してから授業に臨もう。

(6) 読み取る力を身につけよう。

毎日、読書する習慣をつけよう。(小説だけでなく、いろいろなジャンルの本を読もう。)
毎日、新聞に目をとおそう。(記事を読んで、自分の考えをもとう。)
毎日、日記を記入しよう。(生活の記録に、出来事と感じたことを書けるようにしよう。)

(7) 自主学習ノートを作ろう。～ 週に一回まとめて国語の学習を！！

授業の課題を、本文だけをたよりに解き直し、自己採点しよう。
ワークの間違ったところや問題集をノートに答えだけ書き、自己採点しよう。
天声人語など、新聞のコラムの視写をしよう。



社会の学習

1 目標

- (1) 世の中に起こっている出来事に関心をもって生活することができる。
- (2) 教科書の基本用語の意味を理解し、説明することができる。
- (3) 「なぜ？」という疑問をもち、出来事の原因を考えて予測することができる。



2 社会の家庭学習



(1) 予習して授業に参加しよう。

次時に学習する教科書の内容を事前に読んで、大切だと思うところにアンダーラインを引こう。
頭の中でどのような状況なのかをイメージしながら教科書を読もう。
教科書の太字の語句について調べ、ノートにまとめておこう。
地名が出てきたら、必ず地図を見て場所を確認しよう。
自分で学習した内容をノートにまとめよう。

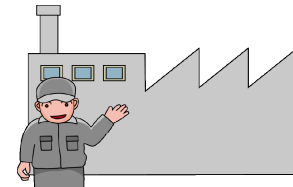


(2) 復習して学習内容を定着させよう。

その日に習ったことは、その日のうちに復習しよう。
教科書の重要語句(太字)を見直し、何度も家庭学習ノートに書いて漢字で覚えよう。
授業で使用したプリントやワークを整理して、学習内容を再度確認しよう。
歴史の学習では、時代ごとに人物・出来事・文化などをノートにまとめて、歴史の流れをつかもう。
先生が色チョークで書いた語句や重要と言われた内容を再度確認し、家庭学習ノートにまとめよう。
単語カードなどを利用して、確実に覚えなければならないものは何度もくり返し復習しよう。
教科書に出てくる史料や絵、統計資料、グラフに目を通し、その特色や全体的な傾向をノートにまとめよう。
ワークや問題集の問題を解いて、わからないところはノートにまとめて書くようにしよう。
見直してわからなかった箇所は、次の日に質問できるようにしておこう。

(3) 世の中の社会現象に関心をもとう。

新聞やテレビのニュースを積極的に見ることにより、世の中の動きを知っておこう。
歴史漫画や歴史番組を積極的に見るようにしよう。
テレビや本の中に出てきた地名や名称を地図帳で確認しよう。



数学の学習



数学の目標

- 1 正負の数計算、文字式の計算、平方根の計算が正確にできる。
- 2 方程式の解き方を理解し、正しい解を求めることができる。応用問題を方程式で解くことができる。
- 3 関数の式、表、グラフを理解し、それらを求めたり、応用問題にあてはめたりできる。
- 4 図形の性質を理解し、角度や長さを求めたり、証明を完成させたりできる。
- 5 資料の整理や代表値について理解する。確率を正しく求めることができる。

1 予習と授業と復習

授業が一番大切です。全力でのぞもう。分かる喜び、できる感動を味わおう。

そして復習することで、学習内容を完璧にできます。復習や宿題は、記憶の残っているその日のうちに片付けること。

予習は、余裕があるなら取り組もう。数学が好きな人は、どんどん先に進んだり、いろいろな数学にも取り組もう。(パズル、数独、高校数学、・・・)

数学検定試験や数学オリンピックに挑戦するのもいいですよ。「数学」が「数楽」になりますように。



「授業中はできるのに・・・」
「やればできるのに・・・」
「人間は忘れる動物です。」
「できないのはやらなから。」
「学問に王道なし。自分に厳しく継続と繰り返しあるのみです。」

「できる」から「分かる」へ
模範解答をまねて、まずは「できる」「解ける」「正しい答えが出せる」ことをめざそう。
「できる」ことが増えていくと、「分かる」ようになります。

2 家庭学習の仕方(数学の友を活用しよう)

授業のノートでその日のうちに復習する。宿題を終える。(授業の前日ではなく、その日のうちに) 数学の友の問題プリントをやる。答えだけでなく解く過程も書く。

赤でつけをする。できない問題は解説を写す。間違いは×をつけて残しておくこと。(誤答は宝物) 次の授業の朝、プリントを提出する。できない・わからない問題はどんどん質問しよう。

次のプリント提出のときに、間違った問題だけをもう一度やり直す。

(数学の友にチェックしておくといい。)

皿回し暗記術

次のプリント提出のときに、2度間違えた問題、1度間違えた問題をやり直す。

テスト前に数学の友に直(じか)にやる。

(定期テストに出題されるのは、学習した問題だけです。)

3 覚えたことを忘れないようにするためには

しつこく何度もくりかえすこと。

トイレに覚えたいことを貼る。

「皿まわし暗記術」を使う

1枚目から順番に2枚目、3枚目、4枚目・・・と棒の先で皿を回していくのだけど、5枚目くらいになると、1枚目の皿はぐらぐらし始めて落ちこちそうになる。

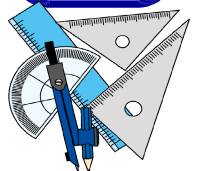
だから、5枚目をまわすと同時に1枚目をもう一度クルッとやって、それから次の6枚目をまわす。

すると今度は2枚目がグラつき始めるので、2枚目をもう一度クルッとやって次の7枚目をまわす。そうやって最初のほうのグラつく皿をもう一度クルッとやりながら、8枚目、9枚目と次々に新しい皿をまわしていく。これが皿まわしだ。

数学の勉強も同じ。前に戻って復習し、完璧に覚えよう。

数学を勉強する理由
筋道を立てて説明する力を身につける。
自分の考えを分かりやすく伝える技術を身につける。
数学的な見方や考え方を身につける。
論理的な思考力を身につける。
数学という学問の世界を知る。自然科学の美しさを知る。
知識があると人生は豊かになる。

数学ができるようにならない原因は
覚える回数が絶対的に足りないから。
一度覚えたことをそれっきり
ほったらかしにしてしまうから。



理科の学習

1 目標

- (1) 身近な自然に目を向けて、自然事象に関心をもって生活することができる。
- (2) 教科書の基本的知識を身につけ、説明することができる。
- (3) 観察や実験に興味をもって取り組むことができる。



2 理科の家庭学習

(1) 復習をして確実に定着させよう。

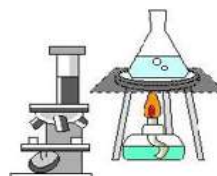
教科書の文章を理解できるまで何回も読もう。

教科書の基本的な内容（用語とその意味、実験の方法、実験の道具と薬品、図表やグラフ、生物名など）を正確に覚えよう。

理科ノートに目を通し、書き足りないところは書き足したり、書き方の悪いところは訂正したりして、きちんと整理してまとめるようにしよう。

教科書・ノートを読み返し、要点のまとめをノートに書き出そう。

ワークなどで繰り返し問題を解き、重要語句や公式などを覚えよう。特に教科書の太字の語句は、完全にマスターできるまで書いて覚えよう。



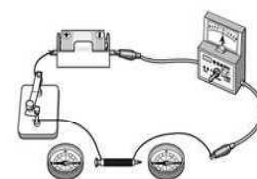
(2) 予習して授業に臨もう。

教科書を開き、次の授業で学習するページを読んでおこう。

実験で使う器具や薬品などの名称や使い方を覚えておこう。

法則や理論を自分なりに理解しておこう。

実験に当たっては、必ず自分の予想（仮説）を立てておこう。



(3) なぜなのかを考えよう。

常に「なぜ」そうなるのかを考え、納得できるようにしよう。

- ・単なる暗記ではなく、理由を理解することで忘れる率が大幅に低くなります。
 - ・理解し納得する学習が身につくと、達成感があって勉強のおもしろさが増えてきます。
- 「目的や方法」「結果と考察」を関連づけて、「実験のまとめ」をしておこう。

(4) 身近な自然現象に興味をもとう。

普段から身の回りの自然現象に興味をもち、観察をしたり、理科の内容に関わるテレビ番組を見たりすることによって、知識を豊かにしておこう。

道端の植物や昆虫、天候、星座などにも関心をもって生活しよう。



英語の学習

1 目標

- (1) 教科書が読めて、意味がわかる。
- (2) 教科書を音読することができる。
- (3) 教科書の基本単語や基本文を書くことができる。
- (4) 簡単な英文を聞き取ることができる。
- (5) 基本的な構文を使って、自分のことや身近なことについて英語で話すことができる。



2 英語の家庭学習



(1) 必ず予習して授業に参加しよう。

新出単語をノートに写し、単語の意味を調べてノートに書こう。
教科書の本文を10回以上音読しよう。読めない単語は辞書で調べよう。
本文をノートの左ページに書き写そう。行間に書き込めるスペースを空けよう。
ノートの右側に英文の意味を書き込もう。わからないところは印をつけて授業で確認しよう。
小テストや単語テストの準備をしよう。必ず覚えてテストに臨もう。

(2) 復習する習慣を身につけよう。

その日に出された宿題には、その日のうちに取り組もう。
教科書を声に出して20回以上読もう。
学習した単語や英文を、覚えるまでノートに書こう。
授業で書いたノートやワークを見直して、学習したことを再度確認しよう。
ノートに書いた本文の意味を見ながら、英文を声に出して言ってみよう。
ノートに書いた本文の意味を見ながら、英文を書けるようになるまで練習しよう。



(3) 今までの学習内容を何度も振り返ろう。

一度復習した問題でも、何度も繰り返し読んだり書いたりして確実に理解し覚えよう。
英文を日本語に直したり日本語を英文に直したりして、英文が書けるようにしよう。
学習したことを使って、自分で英文表現できるように練習しよう。



(4) 身近な英語に関心をもとう。

ラジオやテレビの英語番組を利用し、たくさんの英語に触れるようにしよう。
映画やDVDを視聴するときなどに、英文の字幕を利用したり字幕を消して聞き取ったりなどして、英語を聞き取れる耳を育てよう。
英語の歌を聴いたり、一緒に歌ったりして、英語の発音の仕方を身につけよう。
自信を深めるために、積極的に英語検定にも挑戦しよう。

